

折々の薬草

スベリヒユ バシケン (生薬名 馬齒莧)

日当たりの良い所に生える多肉質の草で、真夏に黄色の小さな花を咲かせます。

この草も前出のオオバコ同様、草取りの厄介な雑草ですが使い道は様々。

- * 熱を取り解毒する働きがあり、急性の下痢や腫れ・炎症を鎮めます。
- * おでき・湿疹に煎じ汁を飲むと同時に患部をこれで湿布します。
- * 蜂に刺された時にはすりつぶして泥状にしたものを患部に塗ると痛みや腫れが早くとれます。

お茶としても市販されていますよ。

また、食べられるので、灰を入れた熱湯でアク抜きした後煮物や和え物に、あるいは茎を日干しにして乾燥ゼンマイの代用にも。

この夏休み、キャンプを計画している方は知っておくと役に立つのでは…？
キャンプといえば、八女郡矢部村にはキャンプ場がたくさんあるようですよ。

清流と豊かな自然を求めて… <http://www.vill.yabe.fukuoka.jp/>
(但し私は決して矢部村の回し者ではありません)



四季の話題

黒い爪の話

今年には戦後60周年。

7月のある夜、NHKテレビの番組はヒロシマ原爆被爆者の「黒い爪」が原爆資料館に展示されていることを伝えていました。

その黒い爪は厚いので爪切りが使えず、3年おきぐらいに折れて取れるそうです。

折れる時、おびただしい出血を伴うとのこと。

これはすなわち、中医学理論の『**肝は血を蔵し、その華は爪にある**』にピッタリ当てはまります。肝臓は血液を貯蔵し全身に行き渡らせる働きと同時に、体内毒素を無毒化し排泄する役目を担っていますが、爪は末端でその役割をしていることが裏付けられたと実感したのです。

肝臓は沈黙の臓器——なかなか音を立てませんが、体がだるい・疲れが取れない・爪がもろくなった…と感じた時は肝臓からの「無言の訴え」です。